



「未来につながる はつらつとした山梨農業」の 実現を目指して

農業に携わる人々や農村に住む人々が
誇りと自信を持てるような
「未来につながるはつらつとした山梨農業」の実現を目指し、
本県農業の再生に取り組んでいます。

山梨農業の新たな動き

本県の農業は、東京圏に近い有利な立地条件や変化に富んだ自然条件を生かしながら、ブドウ、モモなど日本の生産量を誇る果樹を中心に水稲、野菜、花き、畜産等の特色ある産地を形成してきました。しかし近年は、農業従事者の高齢化や耕作放棄地の増加に加え、農業生産額も減少傾向にあります。

その一方で、農業の持つ多面的機能やビジネスから見た農業の魅力が見直され、新規就農者をはじめ、雇用の受け皿ともなる農業生産法人や農業以外の産業から農業に参入する企業など、新たな担い手が増加してきています。

そこで、このような動きをさらに加速させ、本県農業を再生するため、平成19年12月に「やまなし農業ルネサンス大綱」を策定し、「未来を支える多様な担い手づくり」や「自然と調和した美しい里づくり」など6本の柱を中心に各種施策を重点的に推進しています。

こうした取り組みにより、就農を

目指し農業大学校で職業訓練に励む人や、都会から移住し農業生産活動に従事する人、さらに、耕作放棄地などを活用し農業参入する企業が増加するなど、新たな動きが広がりつつあります。

農業協力隊を発足！

県では、今年度、幅広く人材を確保するため全国に先がけて総務省の地域おこし協力隊推進事業を活用し、「農業協力隊推進事業」を開始しました。この事業は、都市部の農業・農村に関心のある方を誘致して農作業や地域活動をしてもらい、その後、農村地域の担い手として就農・定着してもらうというものです。隊員を募集したところ、全国各地から80名の応募があり、20歳代から50歳代前半の男女22名を選定しました。また、隊員への助言を行うコーディネーター（隊長）には、俳優の菅原文太さんに就任してもらいました。

農業協力隊員にインタビュー



協力隊員としての2年半は、夢につながる大切な時間

はのさち
羽野 幸さん（静岡県富士市出身）

自分の手で作ったものを食べたい。そんな思いから農業の道を選びました。働き出してまだ2カ月ほどですが、やはり自然の中で体を動かしたり、土をいじることは、本当に気持ちいいなと実感しています。

お世話になっている佐藤ファームでは、年間を通じてさまざまな野菜を作っています。隊員として働く約2年半の間に、野菜づくりの年間の流れをしっかりと自分の中に植え付けていきたいと思っています。

将来は隊員として学ばせていただいたことを生かし、農家民宿をする計画です。すでに都留市内で古民家を借り、裏の畑で野菜づくりを始めるなど準備を進めています。この2年半は、その夢を実現するための大切な時間です。



農業で得たつながりを大切にしたいですね。
佐藤ファームのインゲンのハウスにて

農業協力隊員にインタビュー

栽培から加工、販売まで行う トータルの農業に魅力を感じて

さとう しんいち
佐藤 慎一さん（埼玉県さいたま市出身）

作物を作るだけでなく、作ったものを自ら加工し、販売するというトータルの仕事として農業に取り組んでいる「どう食と農の環」の考え方、やり方に魅力を感じ、働くことを決めました。

ここでは耕作放棄地を耕して大豆を栽培。収穫した大豆を豆腐やおからドーナツとして商品化し、独自の店舗「とうふ屋ほたる」で販売する事業を展開していて、今後は菜の花から菜種油を作ったり、そばを栽培して製品化することなどを計画しています。これからは農業と食をトータルで考えることが必要だと思います。隊員期間中にこのスタイルの農業をしっかりと勉強し、そこから自分に何ができるのかを考えていきたいと思っています。



道の駅どうしに隣接する「とうふ屋ほたる」では、自社で栽培した大豆を使った豆腐やおからドーナツを販売し人気がある。

「やまなし農業協力隊シンポジウム」参加者募集

夢の実現のために奮闘する隊員たちの活動を、映像などで紹介します。

- ◆開催日時 1月30日(土) 午後1時30分～
- ◆場 所 山梨県民文化ホール(小ホール)
- ◆定 員 500名(応募者多数の場合は抽選)
- ◆内 容 ・基調講演 菅原文太氏(俳優・農業協力隊コーディネーター)
・映像による事業及び協力隊活動の紹介 ほか
- ◆応募方法 各農務事務所、市町村役場などで配布しているリーフレットの裏面に必要事項を記載し、1月14日(木)までに、FAXまたは電子メールで申し込みください。リーフレットは、県のホームページからダウンロードすることもできます。
- ◆応募・問い合わせ先
農政総務課 TEL 055-223-1583 FAX 055-223-1585
HP <http://www.pref.yamanashi.jp/nousei-som/index.html>

農業協力隊員委嘱式



企業の 農業参入を推進

県では、企業が持つ経営力やノウハウを農業で発揮することにより、地域農業が活性化することに大きな期待を寄せています。

昨年4月には専任職員を置き、企業訪問や農地のあっせん、企業参入セミナーの開催などを通じて企業の農業参入を推進しています。



左から筒井さん、古屋さん、販売担当の山見さん
3人のアイデアと協力が新しいニンニク栽培につながる



これが噂の黒ニンニク
臭みもなくブルーネのようで食べやすい

アイ ジャパン 「I JAPAN」

生産から加工、販売まで手掛け、 付加価値の高い製品づくりに挑戦！

果樹専業農家の古屋さんと、新分野開拓を目指す筒井建設社長の筒井さんが共同出資し、昨年5月に農業生産法人「I JAPAN」を立ち上げました。

「付加価値のある作物で果樹の農閑期に作れるものと考え、行き着いたのがニンニクでした。生での出荷とともに、加工品の『熟成黒ニンニク』を素材の栽培から加工、販売まで一貫して手掛けることで、価格を抑えた価値ある商品を打ち出していきたいと考えています」と古屋さん。

笛吹市石和町内で、借り受けた1.75haの耕作放棄地を含め2.5haの畑を整備。9月には新たに正社員3人を雇用し、10月から古屋さんが中心となって初めての植え付けをしました。

初年度の収穫は約30tを目標にしている、すでにスーパーなどへの販売ルートも確保しているそうです。また耕作地も毎年50aずつ拡大していく計画で、古屋さん、筒井さんともに「ニンニクの栽培から加工、販売まで一連で行う法人は日本で数件しかなく、数年のうちには日本一の法人を目指したいと思います」と意気込んでいます。



秋に植えたニンニクの芽が伸びてきた



山梨市水口の耕作放棄地を復活



坂本組 古屋さん

農業はこれからの
ライフスタイルの
ひとつの核になる
と思います

リグリーンベース
浅沼さん



リグリーン ベース 「Regreen Base」 & リグリーン ファーム 「Regreen Farm」

農業をはじめとする生活文化を創造し、 新しいライフスタイルを提案

建設会社の坂本組、陶芸家の浅沼さん、都内のデザイン会社が共同出資して設立したリグリーンベース。二地域居住の提案をする事業に取り組むこの法人では、山梨市水口の古民家を借り受けた活動拠点をカフェとして開放し、隣接する畑でとれた野菜を使った料理などを提供しています。

「田舎での生活を楽しんでもらうために開設した活動拠点を訪れる方々から、農業をしたいという声があり、地域の農家の皆さんと協力して立ち上げたのが農業生産法人リグリーンファームです」と坂本組社長の古屋さん。

昨年、耕作放棄地約1haを整備し、リグリーンファームと坂本組が、野菜や果物の栽培に取り組んでいます。今年春には、農家の指導を受けながら農業体験ができる会員組織「農業倶楽部」も立ち上げる計画で、事業はさらなる広がりをみせそうです。



山梨市水口の古民家が
リグリーンベースの拠点になっている





南アルプス市
おの 小野 聖 さん

若い力で地域農業に活力を

11月中旬には1日千個は柿の皮をむく

自分の考えで経営する農業のおもしろさを実感。 農業はやり方次第でまだまだ伸びる産業です。

自分がやりたいと思えば何でもできる、一国一城の主としてやっていける、それが農業の魅力だと思います。農業を始めたのは8年前。サラリーマンとちがいで、自分の考えで経営していく農業におもしろさを感じています。

果樹農家の生まれですが、地元でも農家の高齢化が進んで多くの耕作放棄地があったので、畑を借りて果樹づくりを始めました。サクランボやモモ、ブドウ、あんぼ柿などを作っていますが、果樹はし好品なので、何よりおいしさにこだわっています。新しい品種も積極的に取り入れ、ブドウは現在14種類を栽培しています。

栽培の基本は果樹農家の先輩である父母を手伝いながら習い、今も多くの助言をもらっています。一方で、あんぼ柿づくりや、ブドウやモモの直売は私が新たに始めました。

直接お客さまの声を聞ける直売は刺激も多く、私のブドウを目当てに毎週足を運んでくれる方もいて、とても励みになっています。また会ったことのない他県の方から、「あんぼ柿のおいしさに感動しました」とハガキをいただくこともあり、そんな時はあらためて農業の楽しさを実感します。

農業はやり方次第でもっと伸びる、大きな可能性を持っている仕事だと思います。これからもおいしさにこだわり、新しい品種にも挑戦していきたいと思っています。



「さあこれから農作業」(農政部長賞)
撮影地:北杜市武川町



「豊作に期待して」(審査委員長賞)
撮影地:忍野村内野



「夏雲の草原」(山梨県知事賞)
撮影地:北杜市高根町



「朝光」(季節賞・冬)
撮影地:増穂町平林



「秋の日」(季節賞・秋)
撮影地:甲州市塩山藤木



「富士山を望む桃源郷」(季節賞・夏)
撮影地:増穂町平林



「桃花爛漫」(季節賞・春)
撮影地:南アルプス市小笠原

美しい山梨の農村風景

第三回 やまなし農村風景写真コンクール入賞作品